



Weekly Report

RI 会長テーマ Engage Rotary Change Lives

クラブ会長テーマ 奉仕を通じて 友情を

年頭のご挨拶



会長 村上隆秀

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えでご同慶に存じます。

日本の経済は政権の新体制が1年余を経て、復興需要の本格化に加え円安による輸出改善効果もあり、徐々に景気は持ち直しの動きがみられるものの、今年4月からの消費税値上げを控えており、生活向上を実感するには少々時間を要する状況にあります。

景気の高揚を願いつつ当クラブの活動を活発に推進し、豊かな心を形成して会員相互の絆をより強く深くなりますよう尽力してまいりますので、本年も会員皆様のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、継続事業である「命の大切さを訴えるポスター展」は無事終了し「中学生と留学生の交流会」も2月に開催いたします。今年度はこれに加え、さくらフェスティバル・親睦旅行などの事業を予定しており、当クラブの更なる発展のために会員増強活動を協力に推進したいと思っております。また、大きな事業として、クラブの節目でもある創立45周年記念式典を3月に実施いたしますが、実行委員長をはじめ各委員会が着々と準備を進めておりますので、会員皆様のお力添えで式典がとどこおりなく行われますよう、より一層のご協力を切にお願いいたします。

最後に、本年は皆様方にとりまして健康で幸多い年となりますよう、お祈り申し上げ年頭のご挨拶といたします。



迎春横断幕設置

年末恒例の「迎春」の横断幕設置作業は広報委員会が担当する。今年度の広報委員は私と山口会員と板倉会員で、みんな老人である。8月に板倉会員が逝き、私は11月、12月と2カ月も例会を欠席した。日程の調整など、全てを会長・幹事にやっていただいた。

設置作業は12月26日(木)の午後3時から行った。朝から薄日は射していたが、午後からは寒くなった。参加者は19名だが、実際に作業をしているのは4~5名で、その他は下で「もっと右」とか「もっと下」などと楽な役割を担当している。以前は梯子による作業だったが、近年は高所作業車で行うので40分ほどで作業が終了した。

「迎春・明けましておめでとうございます」の横断幕の設置は今年で11年になる。例年谷保天満宮の初詣には15万人が訪れるという。その人たちに、ロータリークラブの存在を知らしめるためにも「迎春」の横断幕は効果的である。

設置作業が終了した後は、これまた恒例になっている打ち上げを、門前そばの大黒屋で行った。日本酒、そば焼酎、ビールと、冷えた身体を暖めるのはこれが一番だ。村上会長が持ち込んだ、活きた車エビを天ぷらにしてもらい、これが最高の御馳走になった。15名がさんざん飲んで、最後に天ぷらそばや鴨南ばんで仕上げ。お開きの時には時計が6時を指していた。村上会長、ご馳走さまでした！(文・岡本 貞雄)

R. I. 第 2750 地区 多摩中グループ
東京国立ロータリークラブ

会長:村上隆秀 幹事:山崎義晴

例会日: 毎週水曜日 例会場: 谷保天満宮社務所2階 東京都国立市谷保5209 TEL042-576-5123
事務所: 東京都国立市中1-9-36 KKビル4F TEL: 042-575-0770 FAX: 042-572-8666
E-mail: kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp
URL: http://kunitachi-rc.com/
会報委員: 関重寿・遠藤直孝・齊藤博人・富田聡

第 2169 回例会

日 時 : 平成 25 年 12 月 11 日

会 場 : 例会場

司 会 : SAA

小澤委員長

開会点鐘

村上会長

斉 唱 : ロータリーソング「我等の生業」

お客様の紹介

村上会長

高橋賢一様 法政大学名誉教授

会長報告

村上会長

●2013-14 年度 第 2 回会長・幹事会開催

日時 1 月 18 日 (土) 14 時

場所 グランドプリンスホテル新高輪

出席者 会長・幹事

●国立市商工会 新年賀詞交歓会

日時 1 月 9 日 (木) 12 時

場所 国立市商工会館

出席者 会長

●フィリッピン災害義援金として、クラブ国際奉仕の預金 10 万円を、地区を通して送ります。本日持ち回り理事会で決定いたしました。

幹事報告

山崎幹事

●来週 12/18 は 19 日の年忘れ家族例会に振替です

12/25(水) 規定休会

12/26(木) 午後 3 時より 横断幕設置

1/ 1(水) 祝日休会

1/ 8(水) 新年賀詞交歓会 夜間合同例会

出欠を 12/25 までに必ずお知らせください

委員長報告

●高世情報委員長 12 月家族月間によせて

世界中のロータリアン、クラブ、地区は、毎年 12 月に「家族月間」を祝い、プロジェクト、活動、行事などの実施を通じて、家族と地域社会への献身を示すよう奨励されている。(手続要覧)

当クラブでは年忘れ家族例会が毎年末に行われ、家族と一緒に行動し楽しんでおり、今年も素晴らしい家族例会になることをお祈りいたします。

ニコニコBOX

小山田親睦活動委員

●三田健司様(元会員) 本日は五十嵐会員の言葉掛けを戴き卓話の拝聴に伺いました。皆様のお元気な姿に接し本当に嬉しく思います。ありがとうございます。

●村上会長 本日の公開卓話の高橋健一先生の話の拝聴させていただきます。有難うございます。

●山崎幹事 2 回目の公開卓話、講師の高橋賢一様、よろしくお祈りいたします。

●五十嵐会員 本日ご多忙の中、法政大学名誉教授をお迎えし、卓話を開く事が出来ました。心より先生に感謝を申し上げます。

●内山会員 高橋先生、ようこそいらっしゃいました。拝聴させていただきます。

●喜連紘子会員 高橋様、本日はお忙しい折卓話にお越し頂き有難うございます。お話を楽しみにしております。

●近藤会員 息子が本の続編を出版致しました。読売新聞の十河記者が取材し、昨日記事にしてくださいました。本は増田書店で山積みされています。よろしく
ニコニコ BOX 合計 20,000 円 累計 593,000 円

出席報告

杉田出席委員

1 2 月 1 1 日	在籍 4 7 名中	出席 3 8 名
-------------	-----------	----------

前々回 (11 月 27 日) の出席率	93.02%
----------------------	--------

閉会点鐘

村上会長

(公財) ロータリー米山記念奨学会ニュース

ハイライトよねやま 165 号

2013 年 12 月 12 日発行 (今月のピックアップ記事)

47 年後の恩返し — 台湾の学友・鐘維源さん —

台湾から、米山学友の鐘 維源さん(1966-67/堺 RC)が 11 月 27 日、事務局を訪問してくださいました。鐘さんはなんと今から 47 年前の奨学生で、82 歳だそうです。

当時は航空券を買うお金もなく、12 人乗りのバナナボートで来日。東京農工大学で学んだ後、大阪大学大学院へ進学し米山奨学生となりました。

「社長さんなど偉い方ばかりで、私は上手な日本語も話せず、例会では小さくなっていった」と、当時を振り返る鐘さん。現在は奥様とともに台湾で高分子化学の会社を営んでいます。

また、鐘さんは亡くなったお兄さんを記念して奨学金制度を作り、高校生約 10 人を毎年支援するなど、社会貢献をモットーとしています。2011 年の東日本大震災の時には、会社の 1 ヶ月分の売上げを義援金として送ってくださったそうです。そして今回、「日本のみなさんに恩返しをしたい」と、米山奨学会へ 10 万円ものご寄付をしてくださりました。

鐘さんからのメッセージ

学業に限らず、日本の文化、社会、日本人の卓越なる道徳、社会に貢献する精神、礼儀作法等多くのことを留学の成果として、台湾に持ち帰りました。以来、逆境の中でなんとか頑張っています。私はロータリアンではありませんが、社会に対する貢献、奉仕の精神は今でも堅持しています。ありがとうございます。

“土地の力”を生かした地域づくり

法政大学名誉教授
高橋 賢一 氏

講師紹介

喜連(紘)プログラム委員長

高橋先生は1941年5月に新潟県の長岡市でお生まれになり1966年に日本住宅公団（現UR都市再生機構）に入所し様々な部署・役職を歴任され本社審議役を経て、1997年9月に退職されました。

1998年4月から法政大学教授となられ、昨年3月末に退任されました。退任後もご経験を活かされまして財都市農地活用支援センター評議員会議長等々の役職に就かれてご活躍されています。著書も多数出されていて、最近では「外濠/江戸東京の水回廊」を出されています。

不変の“土地の力”の力を探る

昨今、グローバルなうねりが社会を席捲しています。こうした傾向が強まれば強まるほどローカルな地域固有の魅力を引き出すことが重要です。それぞれの土地がもつ不変の力というべきもので大切な個性といえるからです。ここでは20世紀の半ばにはじまる未曾有の都市化、これによってもたらされた郊外化によって失った固有の“土地の力”を再発見し、これを地域の魅力づくりに活かす方を提案します。

“まち化”に先駆けた条件整備

東京圏への都市化（人口集中）は1950年代の後半にはじまります。地方圏から東京に向かった人々の多くは当初区部に居住し、徐々に郊外に広がります。鉄道駅に沿った市街化、郊外の“まち化”は類例をみないので1960～80年のたった20年の間に概ね現在のまちのかたちをつくります。国立の場合、比較的狭い市域に4つの鉄道駅があり、学園都市づくりが戦前に実施されていたことや高度成長期に富士見台が開発されたこと等々、良好な受け皿整備によって比較的スムーズに進行したといえます。“まち化”に呼応した面的整備は多摩市、羽村市や日野市と共に優等生都市のひとつといえます。

失った国立固有の“土地の力”

人口集中は住宅宅地の大量供給を求め開発が進み、他方では田園風景が消滅するプロセスを歩みます。郊外固有の田や畑、農業用水や里山の木々は貴重なエコ資源でした。しかし人々は家を求め企業も農地の転用を急がせ、行政も最優先でこれを推進しました。

田園の“まち化”は得たことも多々ありますが失ったことも少なくありません。前者は現に私たちが日々を過ごすこの巨大都市東京をつくったことです。他方、失いしものの筆頭は水・土・緑などの自然的資源でした。例えば水田が宅地化されると当然、農業用水も不要となり廃止され蓋が架けられます。下水道の整備が追いつかず家庭雑排水で汚濁が深刻化し埋め立てや暗渠化を加速しました。また厳しい自然、地形や気象と格闘し、それぞれの時代を生きた先人たちの暮らしの痕跡、つまり文化財などの歴史遺産も失われたもののひとつです。

地形がまちの個性をつくった

国立は北から順に東西に伸びる国分寺・立川・青柳の三つの崖線（ハケ）と、これによって階段状に区分された三つの平坦な段丘や多摩川に沿った沖積低地で作られています。総じて緩やかな南面する日当たりの良い地勢が最適な住環境を提供してくれます。また国立の歴史はこの地形的特徴がつけられたといえます。例えば縄文遺跡や古墳などは立川・青柳両崖線の南側の高台に位置しています。神社仏閣もまた崖線に沿って分布しています。また木々に覆われた帯状の崖線は段丘に降った雨が地中を通し留めるダムの役割を担います。ハケ下に湧く泉は矢川や府中用水の一部水源となり農地を潤します。水辺を包む一帯は人々に憩いの場を供し市民はもとより多くの来街者を引き、その恩恵にあずかります。

都市の基幹インフラを担った谷保

国立が成長を遂げ都市となるためには基幹的な都市インフラが必要でした。例えば下水処理場や清掃工場、また車社会に不可欠な高速道路のICや国道整備などです。これらのインフラの多くが谷保で整備されました。それぞれの施設の性格から必然だったとはいえ谷保の人々の協力と土地のおかげといえます。また同時に谷保は国立発祥の地というべき場所で古くから農耕が営まれ近郊農村の原風景を見ることができ、地産地消が一層重視される時代にあってその保全は最重要な行政課題といえます。

環境・文化インフラで結ぶ“歴史・エコ廻廊”づくり

21世紀は環境の時代でまちの集約化（コンパクトな都市づくり）も対策のひとつです。つまり人々が住み働き憩うために必要な土地を可能な限り節約することです。節約した土地と人口減少社会の進行により生ずる空家や空地を活用し、これを農地や林地、水辺など生態系維持に必要な空間に充てます。とりわけ辛くも残った崖線の緑化と、まち中の雨水浸透を進め湧水維持に努め、用水路と農地保全を一体的に進めることが重要です。

水と緑と道空間で構成された環境・文化インフラは大学通りのプロムナードによって富士見台～国立駅周辺を経て国分寺崖線、さらには玉川上水と結ぶ“歴史・エコ廻廊”となります。他方、多摩川を越えて日野市の用水路に、また北や南に向い立川市や府中市とも結ぶ広域連携の大廻廊がイメージされます。また国立市内では千年の歴史をもつ谷保、百年の歴史を重ねた国立駅周辺、50年前に建設され更新期にある富士見台、それぞれの個性あふれた土地の力を活かし融合させることで新たな価値の萌芽が期待されます。住み続けられる居心地の良さと人々を引きつける磁力あふれたまちづくりを“市制施行50周年”（2017）に、引き続き“国立生誕百年”（2026年）に向けて構想してみましよう。

今年は都内三か所を楽しもうとの欲張った企画で 47 名の会員・家族が参加しバスで出発。あいにくの雨で渋滞に巻き込まれ食事会場の如水会館には 30 分遅れで到着しましたが、会長・幹事のご挨拶も手短にご配慮をいただき五十嵐バスト会長のご発声のもとで乾杯。名物ローストビーフを楽しみ、次なる「六本木金魚」に移動。“男性”ならではのダイナミックな踊りの中にも妖艶さも漂う華麗なショーを楽しみました。

帰途、表参道のイルミネーションを鑑賞する予定でしたがなんと夜 9 時で消灯とのことで間に合わず。親睦委員長の調査不足で慌てましたが、村上会長の「大学通りで見ればよい」との一言で皆さん爆笑、和気あいあいのもと 10 時過ぎに余韻を楽しみながら帰着しました。(文・喜連元昭)

お客様の紹介

村上会長

- 吉野利春会員夫人 益世様
- 三田浩一会員夫人 幸子様
- 杉田和男会員夫人 伸子様
- 内山健治会員夫人 幸子様
- 村上隆秀会員夫人 真弓様
- 秋廣道郎会員夫人 康子様
- 岡本正伸会員夫人 芳江様
- 小澤谷守会員夫人 あゆ子様
- 山崎義晴会員夫人 季美枝様
- 石塚陽一会員夫人 美子様
- 寺澤 武会員夫人 房江様
- 木島常明会員夫人 和子様
- 伊藤達弥会員夫人 美智子様
- 北島正典会員夫人 緑 様
- 〃 お嬢様 彩奈様



▲慶事の方々

- 傘寿: 木島常明会員と奥様
- 喜寿: 吉野利春会員と奥様・岡本貞雄会員
- 古希: 杉田会員と奥様・関重寿会員

●吉野会員 年忘れ家族例会に於いて喜寿のお祝をしていただき誠にありがとうございます。御礼申し上げます。

●杉田会員・関会員 本日は私達の為に遠路はるばる沢山の方にお集まり頂き祝ってもらい有難うございました。長生きはしなくてはいけないなどつくづく思いました。美味しい料理を頂き、もう少しこの世に居させて下さい。宜しくお願い致します。

●岡本貞雄会員 本日は喜寿を祝っていただきありがとうございます。当クラブに 10 名もいた「花の 12 年組」も、私と吉野さんの 2 人になってしまいました。まだ 5 名の先輩会員がいらっしゃいますので、追い越さないよう長生きしたいと願っております。

●岡本正伸会員・遠藤常臣会員・寺澤会員 六本木の金魚は、ほとバス夜のコースでも人気があるようです。一度は必見の価値がありそうです。如水会館の美味しい料理と一緒に、楽しませて頂きます。喜連委員長、親睦委員会の皆様、本日はご苦勞様です。

●木島会員 気が付いたら傘寿になってしまいました。そろそろ自覚しなければいけませんね。今日は皆さんに祝福いただき感謝に堪えません。これからも頑張りますので宜しくお願いします。

●喜連紘子会員・遠藤直孝会員 SAA 委員会、親睦委員会の皆様「年忘れ家族例会」の企画、準備をして頂き有難うございました。楽しい一夜となりそうです。来年もよろしく願います。

●齋藤会員 本日は、すてきな企画をなさって頂き有難うございます。2 年目の年忘れに感謝を込めてニコニコします。

●SAA 委員会(小澤谷守会員・三田会員・内山会員) 村上会長、山崎幹事、早くも半年が過ぎましたね！残り半年も頑張らしましょう。又、会員の皆様には、いつも例会運営に御協力いただきありがとうございます。これからもよろしく願います。

ニコニコ BOX 合計 82,000 円 累計 675,000 円

出席報告

岡田出席委員長

12月19日 在籍47名中 出席32名

前々回(12月4日)の出席率 95.65%

閉会点鐘

村上会長